

株式会社ワールド 国内小売事業 月次売上概況

会社名 株式会社ワールド
 代表者名 代表取締役 社長執行役員 鈴木 信輝
 (コード番号: 3612 東証プライム市場)
 問合せ先 副社長執行役員 中林 恵一
 (電話番号: IR・グループコミュニケーション室 03-6887-1300)

2024年2月期 (2023/4/1~2024/2/29)		上期							下期					通期	
		4月 Apr.	5月 May	6月 Jun.	7月 Jul.	8月 Aug.	9月 Sep.	10月 Oct.	11月 Nov.	12月 Dec.	1月 Jan.	2月 Feb.	2H	Full Term	
売上前年比		伸び率 (%)													
国内小売売上		※1	105.4	105.7	105.0	111.5	111.1	99.6	106.3	※5 102.1	107.0			104.6	105.8
店舗売上		※2	106.0	105.5	105.0	113.6	113.0	100.4	107.2	100.7	107.2			103.8	106.2
既存店売上		※3	109.7	109.2	108.4	118.2	118.2	102.7	110.9	103.7	110.5			107.0	109.8
Eコマース売上		※4	102.8	106.3	105.2	103.6	104.3	96.6	103.2	※5 108.5	106.5			107.4	104.4
店舗数		店													
月末(期末)小売店舗数		※2	2,225	2,223	2,223	2,205	2,202	2,208	—	2,210	2,215			—	—
出店			11	0	1	2	4	11	29	4	6			10	39
退店			10	2	1	20	13	5	51	2	1			3	54
M&A			0	0	0	0	6	0	6	0	0			0	6
既存店対象店舗数		※3	2,086	2,094	2,091	2,067	2,049	2,048	—	2,052	2,055			—	—

(注) 当資料は、原則として、翌月の第3営業日を目処に開示しており、速報値を含んでおります。このため、確定値が速報値と異なる場合、翌月の速報発表時に修正してお知らせいたします。また、通期の列においては、当月初から当月までの累計値を記載しております。

※1 売上数値は国内小売売上のみに限定されており、国内の卸売上や催事売上、海外売上などを含んでおりません。

※2 店舗売上及び店舗数には、直営店とVSPA(バーチャルSPA)を含んでおり、FC(フランチャイズ)や海外店を含んでおりません。

※3 既存店の定義は新規出店もしくは新規連結(グループ加入)から丸12ヶ月以上経過した店舗であり、前年同月と売場が同区画(同面積)で変動がないものとしており、対象店舗数も毎月変動いたします。

このため、改装等に伴って移設される場合や1日以上休業する場合、既存店から除外しております(ただし、緊急事態宣言に伴う臨時休業店や営業時短店は既存店の対象としております)。なお、既存店にはEコマースの売上を含んでおりません。

※4 Eコマースの売上には、当社グループのブランド各社が自社サイト及び他社サイトで計上した売上を集計しております。

※5 2023年10月の国内小売売上前年比が102.2%から102.1%へ、Eコマース売上前年比が108.4%から108.5%に修正されました。下線部をご確認ください。

(当月の概況)

休日数(前年差)

当月

±0

前年同月

±0

当月は、国内小売売上が前年同月比107.0%となり、内訳は店舗売上が同107.2%、Eコマース売上が同106.5%となりました。既存店売上は前年同月比110.5%であり、休日数の前年差はございません。

なお、既存店売上はコロナ禍前の2019年11月に対して88.7%でした。

当月は、初旬は気温の高さから緩やかな滑り出しとなりましたが、中旬以降は気温の低下に伴って冬物商材の稼働が一気に高まりました。特に、月末にかけては、ブラックフライデー関連の販促施策も集客に奏功して売上が一段と引き上げました。

EC販路においても、気温の低下が実需アイテムの稼働を刺激しました。販促施策による集客効果も前月と同様に顕著に表れたことから、人流の店頭帰帰という構図は変わらないものの、Eコマース売上は前年超過の趨勢を維持しました。

アイテム別では、ニットが断続的に高稼働したほか、前半はジャケットやブルゾンが売上を牽引、後半はウールコートやダウンコートの動向が活発でした。雑貨はクリスマス関連が急浮上したほか、ブランケットなど暖をとるアイテムも好調でした。

ブランド別では、百貨店チャネル「タケオキクチ」「インディヴィ」、駅ビル「ドレステリア」、SCチャネル「オペークドットクリップ」「グローブ」などが既存店売上を大きく伸ばしたほか、服飾雑貨「イツデモ」やユーズドセレクト「ラグタグ」も好調でした。

(参考: 前期実績)

2023年3月期 (2022/4/1~2023/3/31)		上期							下期					通期			
		4月 Apr.	5月 May	6月 Jun.	7月 Jul.	8月 Aug.	9月 Sep.	10月 Oct.	11月 Nov.	12月 Dec.	1月 Jan.	2月 Feb.	3月 Mar.	2H	Full Term		
売上前年比		伸び率 (%)															
国内小売売上			127.7	149.8	112.2	116.9	130.2	136.0	127.5	131.8	117.6	128.7	141.7	152.4	105.2	126.8	127.1
店舗売上			124.1	156.2	108.3	111.9	128.0	133.6	125.1	126.8	112.5	124.3	134.4	149.6	105.2	122.6	123.7
既存店売上			119.5	150.7	109.3	109.4	120.0	118.0	119.8	111.9	100.8	107.7	120.5	134.3	112.4	112.6	115.6
Eコマース売上			144.7	127.7	130.1	140.1	138.8	145.3	137.4	158.0	141.2	149.5	168.7	161.4	105.3	144.9	141.5
店舗数		店															
月末(期末)小売店舗数			2,364	2,358	2,353	2,341	2,316	2,313	—	2,301	2,304	2,304	2,248	2,205	2,224	—	—
出店			14	1	0	2	3	10	30	4	5	1	0	0	22	32	62
退店			11	7	5	14	28	13	78	16	2	1	56	43	28	146	224
M&A			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	25	25
既存店対象店舗数			1,569	1,577	1,577	1,568	1,539	1,533	—	1,541	1,550	1,553	1,497	1,460	2,083	—	—